

## 2020年度第4回京都競馬特別レース名解説

### <第1日>

#### ○ 高雄特別

高雄（たかお）は、京都市右京区の地名。清滝川に接し、古くから京都郊外の紅葉の景勝地として有名。梶尾（とがのお）、榎尾（まきのお）とともに三尾と呼ばれる。

#### ○ 長岡京ステークス

長岡京（ながおかきょう）は、京都府南西に位置する市。真言宗の乙訓寺、菅原道真を祀る長岡天満宮、西山浄土宗総本山の光明寺がある。名は、延暦3年（784）に桓武天皇が造営した長岡京に由来する。

#### ○ 夕刊フジ杯オパールステークス（L）

オパール（Opal）は、真珠のような光沢をもつ半透明の鉱物。また、10月の誕生石。夕刊フジは、産業経済新聞社より発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### <第2日>

#### ○ りんどう賞

りんどうは、リンドウ科の多年草。日本全土に分布し、秋に青紫色の鐘状の花を数個開花させる。根は苦みが強く、竜胆（りゅうたん）の名で健胃薬として用いられる。花言葉は「正義」「誠実」。

#### ○ 藤森ステークス

藤森（ふじのもり）は、京都市伏見区にある神社。本殿は、室町時代の一間社流造りで国の重要文化財に指定されている。5月上旬に催される藤森祭では、勇ましい武者行列が町内を巡り、表参道では駈馬（かけうま）神事が行われる。

#### ○ 農林水産省賞典京都大賞典（GⅡ）

本競走は、昭和41年に『ハリウッドターフクラブ賞』の名称で創設された重賞競走。創設時は3200mだったが、翌年2400mに短縮され、49年に現在の競走名に改称された。

なお、第1着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。

### <第3日>

#### ○ 紫菊賞

紫菊（しぎく）は、紫色の花をつけるキクの総称。キクは、食用としても古くから親しまれ、お浸し・酢の物・天ぷら・吸い物など様々な料理に用いられる。中でも赤紫色系統のキクは、栄養価の高さから延命薬とも呼ばれている。

#### ○ 清滝特別

清滝（きよたき）は、京都市右京区の地名。保津川支流の清滝川が流れ、夏は京都で数少ない納涼避暑地となる。国の天然記念物であるゲンジボタルの生息地としても知られている。

#### ○ 太秦ステーキス

太秦（うずまさ）は、京都市右京区の地名。国宝第一号である『弥勒菩薩半跏思惟像』が安置されている真言宗御室派の広隆寺は「太秦のお太子さん」として親しまれている。

### <第4日>

#### ○ もみじステーキス

もみじは、晩秋に木の葉の色が変化する現象。また、カエデ科の数種を指す総称。日本列島には秋に紅葉する植物が非常に多く自生しており、その数は 100 種類以上と言われている。

#### ○ 大原ステーキス

大原（おおはら）は、京都市左京区の地名。比叡山の北西麓に位置し、寂光院・来迎院・三千院などの古刹のほか、後鳥羽天皇の陵や惟喬（これたか）親王の墓がある。

#### ○ 秋華賞（G I）

本競走は、平成 8 年に創設された 3 歳牝馬限定の重賞競走。7 年まで『桜花賞』『優駿牝馬（オークス）』に続く牝馬三冠最後の競走は『エリザベス女王杯』であったが、同競走の出走馬資格が 3 歳以上牝馬となったことに伴い、新たに三冠を締めくくる競走として本競走が設けられた。

秋華（しゅうか）は、中国の詩人である杜甫や張衡が文字通り「あきのはな」として詩中で用いた言葉。「秋」は大きな実りを表し、「華」には名誉・盛り・容姿が美しいという意味が込められている。

## ○ 平城京ステークス

平城京（へいじょうきょう）は、元明天皇の和銅3年（710）に藤原京から遷都し、桓武天皇の延暦3年（784）に長岡京に遷都されるまでの都。京域は現在の奈良市から大和郡山市に及び、主要部は東西約4.3km、南北約4.8km。北端中央を平城宮とし、その南面中央から南下する朱雀大路の東側を左京、西側を右京、左京の東側へ張り出した部分を外京と呼んだ。

## <第5日>

### ○ 壬生特別

壬生（みぶ）は、京都市中京区の地名。かつては朱雀大路と並行して、平安京を南北に貫く壬生大路が大内裏の美福門に通じていたが、低湿地であったため農業が発達し、農村に転じていった。また、幕末には新撰組が屯所を置いたことでも知られる。壬生寺では毎年節分・4月・10月に、国の重要無形民俗文化財である壬生大念仏狂言が一般公開される。

### ○ トルマリンステークス

トルマリン（Tourmaline）は様々な色彩を持つ鉱物グループの総称。名は、スリランカのシンハラ語で「トルマリ」と呼ばれていた宝石に由来する。10月の誕生石として知られ、周囲に電気を帯びる性質を持つことから電気石とも呼ばれる。

### ○ 室町ステークス

室町（むろまち）は、京都市中央部の通り。北は北山通から南は久世橋通までを指す。三条通との交差点付近は交通の便がよく、西陣にも近いことから繊維問屋が集中している。今出川通の北側には、「花の御所」と呼ばれた室町幕府が置かれた。

## <第6日>

### ○ なでしこ賞

なでしこは、ナデシコ科ナデシコ属の多年草の総称。ナデシコ属の植物は世界各国に分布しており、日本原産の種も存在する。夏から秋にかけて桃色の花を咲かせる。秋の七草のひとつで、ヤマトナデシコ、カワラナデシコなどの別名がある。花言葉は「純愛」「大胆」。

### ○ 鳴滝特別

鳴滝（なるたき）は、京都市右京区の地名。中央を流れる御室川を鳴滝川とも言う。名は、この地にある小さな滝の音に由来する。また、江戸時代の陶芸家、尾形乾山が窯を開いた地でもある。

## ○ 桂川ステークス

桂川（かつらがわ）は、京都市西部を流れる川。丹波山地の東端を水源とし、亀岡盆地・保津峡・京都盆地を経て、大山崎付近で宇治川・木津川と合流し、淀川となって大阪湾に注ぐ。周辺には、松尾大社や桂離宮など名所旧跡も多い。

## ○ 菊花賞（G I）

本競走は、イギリスの『セントレジャー』に範をとり、昭和 13 年に『京都農林省賞典四歳呼馬競走』として創設された重賞競走。23 年より現在の名称になり、スタンド改築時を除き、距離や実施場は第 1 回から変わらず今日まで受け継がれている。『皐月賞』、『東京優駿（日本ダービー）』に続く 3 歳クラシック三冠の最終関門。本競走は、「最も強い馬が勝つ」と言われており、二度にわたる坂越え、3000m の距離を乗り切るスピードとスタミナを兼ね備えた馬に栄冠が輝く。

菊花（きくか）は、菊の花の意。菊は、キク科キク属の多年草で、世界中に 1 万種以上あると言われている。色や形は種類によって多岐に渡り、観賞用だけでなく食用としても用いられる。花言葉は「高貴」「高尚」。

## ○ 貴船ステークス

貴船（きぶね）は、京都市左京区の地名。深山幽谷や貴船川の清流が見られ、祈雨祈晴の神として古くから信仰を集めている貴船神社がある。貴船川の川床は座敷から素足を付けることが出来るほど水面が近く、京料理を楽しむことができる川床料理店が軒を連ねる。

## <第 7 日>

## ○ 萩ステークス（L）

萩（はぎ）は、マメ科ハギ属の落葉低木の総称。葉は 3 枚の小葉からなる複葉で楕円形。秋の七草のひとつで、紅紫色の蝶形花を対生状につける。花言葉は「想い」「思案」。

## ○ 古都ステークス

古都（こと）は、古い都・旧都という意味。京都は、延暦 13 年（794）の平安遷都から、明治 2 年の東京遷都まで 1000 年以上にわたって日本の首都であった。かつての皇居、京都御所が京都市中心部にあり、その広大な敷地は京都御苑と呼ばれ市民の憩いの場となっている。

### ○ 毎日放送賞スワンステークス（GⅡ）

本競走は、昭和 33 年に創設された重賞競走。創設当初は春季の 1800m、ハンデキャップ戦で実施されていたが、36 年より別定重量戦に変更され、さらに幾度かの変更を経た後、59 年から秋季の 1400m で実施されている。なお、第 1 着馬には同年のマイルチャンピオンシップへの優先出走権が与えられる。

スワン（Swan）は、「白鳥」を意味する英語。京都競馬場のスタンド「ビッグスワン」「グランドスワン」の名称にも使用されている。

毎日放送は、大阪市に本社を置く放送局。略称は MBS。ラジオは昭和 26 年開局で JRN と NRN 系列、テレビは 34 年開局で TBS 系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

## <第 8 日>

### ○ 北國新聞杯

北國新聞は、北國新聞社より発行されている日刊紙。同社は、石川県金沢市に本社を置く。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### ○ 葉ステークス

葉（しおり）は、読書などを一休みする際、書物に挟んで目印とするもの。本競走は、京都競馬場が 100 周年記念事業の一環として整備工事に入ることから、お客様との再会の目印となることをイメージして名付けられた。

### ○ カシオペアステークス（L）

カシオペア（Cassiopeia）は、北の空に見られる星座。北斗七星とともに北極星を探す指標となる星座として知られている。星座の形が M 型や W 型に見えることから「山形星」「錨星」とも呼ばれる。名は、ギリシャ神話に登場する古代エチオピア王妃のカシオペイアに由来する。